

市民記者が行く！広報サポーターレポート

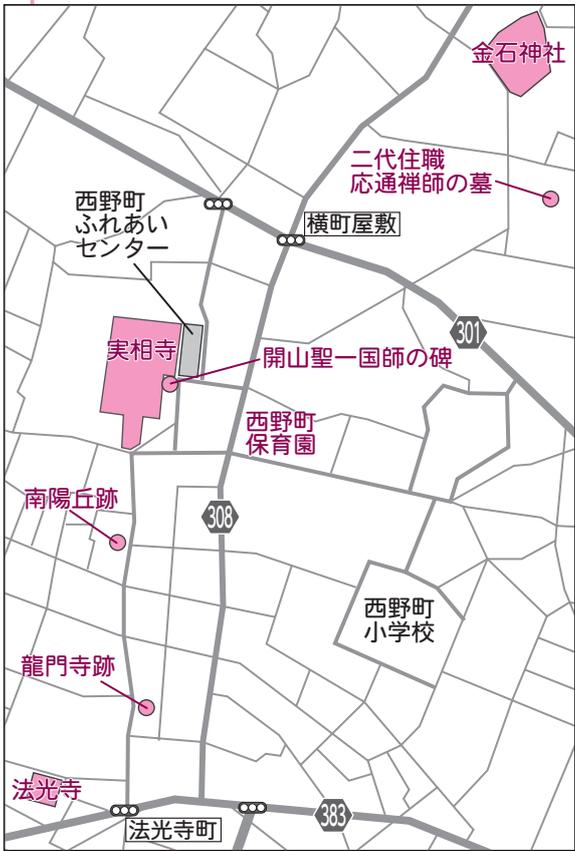
西尾の名刹実相寺と中世吉良氏



広報サポーター
鍋田哲雄さん(細池町)

西尾・岩村友好の会主催の歴史講演会とその現地見学が2日にわたり行われるということで参加しました。6月27日には、西尾商工会議所で新編西尾市史古代・中世部会調査員の齋藤俊幸氏を講師に講演会が催されました。会場は地元の良い歴史好きの皆さんでいっぱい。中世吉良氏と三河、そして実相寺との関わりについて分かりやすく話をされました。続いて、7月5日には、現地見学が行われました。参加者は西野町ふれあいセンターに集合。講師は同じく齋藤俊幸氏と、西尾・岩村友好の会会員の浅岡敏雄氏。齋藤氏の説明に浅岡氏が補足するという形で始まりました。当日はあいにくの空模様。傘を手に地図を見ながらの散策です。

鎌倉時代の御家人・足利氏の一門であった足利吉良長氏は三河国吉良荘の地頭となり、子孫は吉良氏を名乗ります。その吉良氏が菩提寺としていたのが実相寺です。



まずは「開山聖一國師」の碑。西野町ふれあいセンターから南に道へ出るとすぐにその碑はあります。聖一國師は、京都・東福寺を開山した僧で、70歳のときに実相寺を開山し、初代住職になったといわれています。さらに南へ、実相寺の南陽丘跡、龍門寺跡を巡りました【1】が、当時をしのぶものはありません。そして、実相寺の塔頭が残る法光寺。地名の元になった寺で現在は無住ですが、地域の方々が手厚くお世話をしていることがうかがえるお寺です。これらの遺構についての話や、残る塔頭から当時の実相寺の領地の広さを思うばかりでした。ここからは北へ踵を返し、西野町保育園のそばで、中世吉良氏の祖である吉良長氏が隠居所とした「丸山御所」がこのあたりにあったとの話に、参加者はしばし遠き昔をしのんでいました。しばらく茶畑の中を進み、県道を横切り、訪れたのは金石神社

社【2】。ここは元実相寺跡の伝承地です。実相寺は織田信長によって全てが灰燼に帰ってしまったのですが、創建時はこのあたりに建っていたのでは、ということ。金石神社から再び南へ返し、茶畑の中を歩いていき、着いたのは二代住職応通禪師の墓【3】。ぽつんと立っている墓によくぞ残っていたものだと感じました。散策の最後はもちろん実相寺本堂上がり、住職の話に耳を傾けました【4】。文永8(1271)年に吉良満氏によって建立されたといった寺の由来などについて、皆、熱心に聞き入っていました。手元の万歩計の数字は8500を示していました。心地よい疲れを感じながらの散策でした。

広報サポーターは、公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で、市内各地のイベントなどを取材していただきます。